

## 第2回栗東市子ども・子育て会議 会議録要旨

開催日	令和4年3月1日（火）
開催方法	書面会議（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による。）
委員	岸本晃委員、國松美保委員、濱田淑子委員、竹山和弘委員、加藤雅也委員、白井洋一委員、本山真知子委員、田中裕委員、木築野百合委員、寺井利彦委員、國松芳子委員、山本初子委員（副会長）、井上和子委員（会長）、井上忠之委員、北村一子委員、長岡由美委員
事務局	幼児施設課、幼児課、健康増進課、子育て応援課
事項	1 開会 2 市民憲章唱和 3 挨拶 4 議事 ○事業計画に基づく令和3年度の取り組みについて【資料1】（書面報告） 5 閉会

1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

4 議事

（議事）

事業計画に基づく令和3年度の取り組みについて【資料1】（書面報告）

・事務局より書面報告および意見照会を行った。

委員 感想として、保育園の子で、長時間利用者が増え、朝早くから、夕方遅くまで同じメンバーで過ごす生活となっております。今までは、小学校入学に伴い、退職される方もありましたが、今は、続けられている方が多いのだと学童保育所利用者数を見て感じました。子どもや保護者が小学校入学後も安心して、生活できる体制作りが重要である。児童館の利用者が、例年までにはいかないものの、昨年より増えていることから、やはり、保護者はこのような場を求めているのだなと思いました。園では、コロナ禍から未就園事業を行っておりません。子育ての不安を解消したり、保護者を孤立させない場の設定やかかわりをしていかないといけないと思いました。

委員 書面内容に異論はありません。コロナ禍での各事業の問題点、工夫や対応について議論ができるとよいと思いました。

<例>

- ・病後児保育においては、企業によって子が有熱状態なら出勤しないように言っているところもあり、利用者が例年より少ない。
- ・コロナ感染を疑わなくても利用前には抗原検査を実施するようにしている。
- ・保育士などの職員の検査体制等の整備が進むとありがたい。

事務局 園の職員の検査については、現在、一部の園にはなりますが抗原キットを

準備し必要に応じて使用しています。今後、全園においても取り組みが進むように検討してまいります。

委員 (乳児家庭全戸訪問事業について) 訪問希望のない理由に「新型コロナウイルス感染が心配」という声があります。乳幼児がおられるご家庭ではコロナに感染しないよう普段から細心の注意を払って生活をしておられると思いますので、家族以外の方を家に招き入れるのは容易でない状況かと思えます。県外では数年前からオンラインによる子育てに関する個別相談を実施している市もあります。今後のコロナの感染状況にもよると思えますが、栗東市でもオンラインによる個別相談の実施を検討してみても良いのではないかと思います。

事務局 電話で事業の利用勧奨を行っており、その際にも子育ての相談に応じております。本事業は、相談に応じることはもちろん、助産師または保健師が感染防止対策を行い、乳児をみたり、触れたりして成長発達の状況を保護者とともに確認し、必要時、手立てについての案内を行うものです。オンライン相談については、対応している機関の情報提供を行うなど検討してまいります。

事務局 コロナ禍での生活が長期化する中、孤立感や子育ての不安・負担が大きくなりがちです。親子が短い時間でも児童館や子育て支援センターに来ることで、不安の軽減や安心して子育てに向き合えるよう声掛けや活動を通じて関わりを持っています。また、巡回相談や電話での相談も行いながら、保護者支援をしています。現在、児童館、子育て支援センターでのオンラインによる個別相談についてのニーズは多くありませんが、今後の感染状況などを見極めながら検討してまいります。

委員 共働きの家庭が増え、保育園へのニーズの高まりは続くと思われる。より良い保育園に預けたいという保護者の思いは根強くあり、待機児童の問題が落ち着いてくると、どんな保育園なのか知りたいという思いが増えてくると思われる。市として、どのような方策があるのか伺いたい。「各法人立保育園に任せておけばよい」というものではないだろう。

事務局 保育のニーズの高まりの中で、安定した保育士の確保が必要だと考えます。今後も保育就職フェアや保育の魅力発信等を市内園とともに取り組んでいきたいと考えています。

事務局 全国的な動向と同様に、幼稚園入園ニーズは減少、保育ニーズは増加し、幼稚園と保育園の在籍状況にアンバランスが生じている状況で、今後もこの傾向は続くと思っております。しかし、地域ごとに差異がみられ、地域によっては保育園においても供給が過剰となってくると予測されます。そうした中で、地域の実情に応じた地域の個性を生かす取り組みを促進し、様々な状況の変化や、多様化する保護者ニーズに対応できる環境づくりが必要と考えています。よって、第2期栗東市子ども・子育て支援事業計画に記載されている認定こども園の普及にかかる基本的な考え方や、現在検討しております今後の就学前教育・保育施設のあり方等検討等に基づき、公立園の認定こども園への移行などの取り組みを進めて参りたいと考えております。

委員 虐待の事案が年々増加傾向にあり、関わる機関は非常に多忙と聞く。人手は足りているのか、また、十分な対応はできているのか、と思うが。

事務局 家庭児童相談室に寄せられる相談件数は、年々増加傾向にあります。子どもや家庭、妊産婦の福祉について必要な支援をするため、今年度より家庭児童相談室を事務局として「子ども家庭総合支援拠点」を設置しました。関係機関が連携することにより一体的に運営し、様々な事案に対応し支援

しています。

5 閉会

以上